

21/3/25 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 石垣・埋蔵文化財部会（第41回）
名古屋市民オンブズマンによるメモ

10:00

鈴木：始める

松雄から挨拶

松雄：年度末ありがとう

コロナ禍でも頻繁に

信頼を築く

基本方針案を取りまとめた

来年度具体的な設計に入りたい

文化庁からの指摘事項への対応

一昨年9月指摘以降、組織挙げてやってきた

先生方に丁寧に説明

追加情報 一定のとりまとめ

できれば一定の意見を

鈴木：出席者紹介

報道の皆様はここまで

資料の確認

北垣：おはよう

本丸搦手馬出 事務局から

鈴木：資料1 積みなおし基本方針 再構成

修正点を説明する

名古屋城：目次 関連図表

前回とほぼ同じ

変更点 10ページ

逆石 どう座っているか

3案を採用

20ページ 今後の検討課題

北垣：ありがとう

逆石をどう処理するのか

現場で確認することが一番大事
前回15日させていただいた
十分納得できる話
委員からお考えを

宮武：写真を出して

発掘現場 座長の説明 現場で石工さんとディスカッションが重要
当初懸念していた慶長期ダメージ 天和いじくられたは払しょくされた
逆石 性格をネガティブに規定している

下の慶長期ダメージ 直立

天和の石垣 角度調整しやすい石材を選んでいる

築石 これを逆石と呼んでいる

6ページの資料 よい資料だが用語がおかしい

水平になっているのか、上がっているのか

勾配に対して水平は意味が分からない

直角はわかる

ここを見ているのか、こっちを見ているのか

順当な勾配ではなく、

下のあわせぐわいか

そこは吟味が必要 視点としては非常に良い

「逆石だから危険」ではない

もう少し練っていいものに

上の角度調整 担保するように尻をがっちりする

技術観としては、くせのある石をわざわざつけた

懸念 下がだめ？ これならできる

実施設計に向けてやって

西形先生 構造計算して

北垣：ありがとう

鈴木：ありがとう 凡例の表現がわかりにくい

勾配に対して直角ではなく、地面に対して水平か、お尻が上がるか下がるか
表現が誤っていた

裏側の構造 しっかりと石が詰まっている

しっかりとした構造になっている

記録を取った 今後の事業に生かしたい

西形：逆石 イメージがよくない名前 上面
左側の石 下面が気になる 円弧上になっている
変状が起こりやすい可能性
伝統工法で対応できるか
担保されれば結構

鈴木：通常逆石は上面で判断
上がることで、その上の石が滑りやすい
西形 この石の下の勾配 滑りやすいか
丸い石
この石をお尻を下げる 反時計回り 安定させる
枠工で 杭がながいわけではない 荷重的に不安
後ろに石を接続 なにかしらボルトなどで 前に出ないようにしたい

宮武：15日に出ている
補強策 どうして今日資料をださないか
速度的に遅い
これを0にするか100にするか
安定したものに
特別史跡を構成するピースであることは確か
前回の15日会合 生かす 後ろ補強 串うちしてしまう
骨折した患者 ボルトで固定
ピースは残して補強
部会で提示して
えらく慎重

鈴木：資料は適切に追加させていただく

千田：お伺いしていたことが一部反映されていない
逆石 不安定要因 新石に変えるのが一般的
そうではなく、本物の石をいかしながら、慶長 歴史そのものを残しながら
現代に求められる安定性
従来の石垣修理では行われていなかったレベルの高い修理の方法
充実した資料 調査、石形状の分析
周りの石とどう構成しているか
従来の石 変えてしまえ！ 石の歴史、構造は把握してこなかった
レベルを引き上げる全国石垣修理のお手本になるよう すばらしい

特に左の石 安定化を新しい技術を入れながら 重要になる
この方針で名古屋城全体の石垣 基本の方

北垣：いいまとめ

基本的な考え方 逆石論 提唱されたかたもいる
こういった石材であっても、名古屋城にとっては極めて大事な資料
これを生かす方法 よかろう
西形先生 具体的には工学的な面もしっかり検討
いい仕上がりにしてほしい
ほかにあるか
今日の意見を踏まえて、全体整備検討会議に付議してほしい

宮武：一緒に諮ってほしいこと

整備が終わった時、石垣のてっぺんに人を乗せるか
転落防止
櫓台、堀の際 ゾーニング、導線
明確なルールは決めていないのではないか
検討会議ではかって 部会に下ろしてほしい

北垣：そういうことを踏まえて第1点目 修復諮らせていただきたい
次に2点目 現天守閣解体 指摘事項への対応

10:32

名古屋城：文化庁に相談した

地元有識者 議論して
資料 このままでは細かすぎる ボリュームも多い
一問一答 回答
資料のまとめ方指導いただいている
資料2-1石垣に影響ないもの
アーエ 4つ
現状変更を必要とする理由 木造復元具体的内容の追加を
アー1

村木：考古学調査

その後工学的分析
裾部
レーダー探査 地下遺構 11か所

まとめだけを述べたい

2の6まで 回答の概要

内堀 成果 2-7~9 レーダー 2-10

2-8 土の層

広範にかく乱はなかった

名古屋城として守らないといけないもの 近世下は厳密な保護の対象

遺構 西側 2列石列 2-9

石列 天守台との接点

それぞれの石列石材 天守台は接するところまで

それ以外は接するところまではない

加えて、すべてのトレンチ 礫群が広がっている

今回は遺構を調べるまでいたっていない

重要な遺構と認識 今後調査体制を整える

堀の底面 かく乱 レーダー探査 赤、黄色

かく乱の可能性 いくつかはかく乱

堀底に一定のかく乱はあった

天守台石垣から隔たっている 御深井丸側にある

南側もレーダー探査 西側堀南側

ある程度かく乱 南側ある

発掘調査していない 1-2メートル かく乱がある

内堀調査 地下部分

発掘調査 顕著な変状は見つからなかった

根切あった

御深井丸側 瓦を含む近世 根石まで 宝暦以降根石付近まで及んでいる

当初が失われているのではないか

考古学的成果をまとめた

名古屋城：工学的解析

空隙はなかった

石列 力学的には独立している

→工学的解析 大きな2つ目の指摘

解体と復元は一体で審議

もともとの解体仮設物設置+木造復元時 最大荷重時

エリアごとに解析した

2-11 あらたに発掘した石材

2-2 仮設計画 軽量盛り土+仮設物

遺構面 いずれのところも小さい

成人男性地面歩行時より 小さい
遺構の保護対策として妥当と考える
御深井丸石垣 現況把握

村木：指摘事項「地下部分＋石垣面現況把握」

2-3 1-5まで
堀の中央部 比較的大きなかく乱
根石付近まで
石垣現況調査 カルテの見直し 現況把握を
エのほうでまとめて報告したい

名古屋城：仮設計画 内堀石垣
最後のエでまとめている
御深井丸 地下遺構発掘調査

村木：解体に伴い仮設構台、栈橋

25か所 小さなトレンチ調査

資料2-13, 14

通路部 茶庭部、礎石部

3つにわけて説明

通路部 発掘調査を行った

時期不明の盛り土 遺物が出ない 近世～近代に盛り土

断面 遺構は確認できず

石垣との関係も確認できず

茶庭部 金城温故録 水道 E,H,L

石列確認 水路 片側だけ 地表面から15センチ

御番所 F 遺構は見つからなかった

近世の盛り土 断ち割る形で 瓦を含む近世の盛り土

遺構は確認できず

希薄なものではなかったか

絵図 御深井丸 記載がほとんどない 発掘調査で確認できた

礎石部 礎石を移した かなり大きな盛り土をした

現地表面から50センチ 掘り下げないと近世の地面に達しない

一部包含層

遺構は確認できず

地下遺構 きわめて希薄と結論

遺跡の保護 近世の最後の盛り土面 下は厳格に保護が必要

名古屋城：工学的解析 仮設計画

礎石部 当初は山砂で埋める

上からの重量 礎石の破損を懸念

仮設物設置計画を見直し 2-15

礎石を避けて基礎を作る

通路の部分 地下の遺構面が想定より浅かった

盛り土 10センチ厚くして、下層の軽減を図る

見直した仮設計画 地下遺構保護妥当

ウ 大天守北側ハラミだし

村木：地盤調査がまだ

地下部分 大きな変状ない、かく乱が石垣まではいっていない

名古屋城：工学的視点からの考察

天守台石垣変動はない

現状では安定

仮設物設置 ハラミだし前面 軽微と考える

内堀 抑え込み効果 さらに抑えられる

背面に空隙は認められない 押し込みもない

上部養生 2-18 図

大型土嚢3段 はらみだしを抑える

村木：エ 1番

天守台石垣

それ以外の石垣

まず石垣の現状を正確に 特に背面を

→まずは石垣カルテを

見直した 昨年石垣部会 2-19~23

説明割愛

劣化状況 2-24~27

石材の割れ、剥離が問題

2点目 北面ハラミだし より精緻に

5メートルピッチ→横1メートルピッチ

資料28, 29, 30

はらんでいるところがここ

反応が強いところ 空隙があるわけではない

栗石が緩んでいる 大きな空隙を示唆するものではない
下のほう 栗石が土砂、モルタル 反応がしにくいのではないか
横方向 同様 上のほうは緩みはあるが空隙はない
下は反応が出ていない
石材、空隙検討した

名古屋城：表面剥離

はらみだし部安定性 特に空隙がない 危険性はないと考える
表面の剥離
埋め戻し 表面剥離進行の可能性
他城郭前提 より優れた材料を検討 石垣保護事前対策
天守台以外 御深井丸石垣

村木：外観総合調査の見直し

U65 北側の事例 資料2-31-37
間詰石 表面の劣化、剥離
2-33 濃尾震災時に崩れたという記録
天守台以外の石垣 表面観察のみ
背面土は来年度レーダー探査を計画

名古屋城：内堀保護工

間詰石の補充
来年度御深井丸、鶉の首 レーダー探査予定
保全対策を実施する
調査結果まとめ
明らかとなった事項と課題
北面ハラミだし 変状は認められない
背面空隙認められない 内堀保護工で押し込む危険性はない
表面剥離
夏頃めど 石垣保護計画を策定
来年度レーダー探査
内堀石列 今後文化庁、有識者と協議
現状変更を必要とする理由
木造復元具体的計画 2-39~46 基本構想
文化庁と相談、ご助言
主任調査官 2月9日 おおむね了承
文化庁の提出もおおむね了承

天守に絞って
保存活用計画に基づき
39 なわばりの特徴など
40
41
45 整備方針

11:13

北垣：長時間にわたり、文化庁の指摘事項への対応 示されたことに対する調査結果
忙しい中での説明
この点について先生方 とにかく流れるようなこと

宮武：30分にわたる説明 議論は15分
指摘事項は忠実に実行
新しく見つかった知見 新しく堀底から石列
課題
次年度徹底するように調査を実施 続けて
課題に対して100%ではない
大天守台 あまり考えられない
レーダー探査 ハラミだし腰回り モルタルと絡んでいる
詰まっている？

村木：具体的なところはわからない

宮武：異常な状態
固まっていればよいが、分離している場合
熊本城 揺れて石垣が崩壊した
課題に沿って答える
聞いていて心配は御深井丸
発掘調査した 転落防止策、囲い 4つトレンチ 天端までほれていない
担当者大変だったろう
かく乱 2-10 石垣に影響与えない
大天守台から離れている
御深井丸前に並んでいる
※ついているところ
掘っているところ全部当たっている
入れたところかく乱当たっている

前の表 資料2-7

これだけのトレンチ かく乱 全部22のうち9か所 40%あたっている
「大丈夫です」言い切っているのか

全部めくるわけにはいかない

資料2-2 左側ア3番

「少し離れている 大規模なかく乱は認められなかった」言い切っている
天端トレンチしていない

これからレーダー探査 ダメージ

そこは来年度建造度

資料3-2 傍聴の人もびっくり

上は野面積みではない

剥離したということではなく、いま前が取れて奥
構造物として安定しているのか

かく乱の悪影響

劣化

天端

縦に割ると問題

構造物 どけた段階 トレンチを入れる

まどろっこしいが設計を変える

最初の課題 新しく見つかった知見 木造云々ではなく名古屋城の健康度

解決させるためには一歩進んだと思う

北垣：ありがとう

その他は

千田：今日の会議 いずれも重要

現天守解体 文化庁指摘事項 非常に重要

解決しないとどんな計画でも進まない

報告を受けた 調査の成果 回答「こうわかった 継続調査はこう」

「こう対策をする」 明確になった

どう保護 今後検討

宿題 ほぼ完ぺきに回答ができた

今後の名古屋城の整備 前進 壁を越えられた

細かいところ お願いしたいところ

資料2-3 イ 御深井丸発掘調査

小規模な試掘抗 必要な発掘調査

「小規模なら十分ではない？」

→小規模でも必要なところ

上部はつかめてない

資料2-6 左下 御深井丸地下遺構

少ない 事実関係を書いた

→完全に保護をする

もう一步明記を

全体計画の中身 現天守解体申請 天守のことだけ 復元 ではなく、
名古屋城中心部をどう整備するか

だから木造不可欠 非常に重要 明確は大きなこと

今回 部会のメンバーとしては評価したい

石垣などの文化財を毀損しない 保護をしたうえで明示

資料2-45 左側

当たり前だが、従来必ずしも担保できているだろうか心配

報道などで伝え聞いていた 払しょくした

特別史跡の遺構 今後の整備を考える あらためてスタート地点

これだけのことをまとめたのは大変だったと思うが

北垣：千田先生の意見 我々 一番大事なところが書かれている

方向性

やっていけばの話

大事な視点を出された

ほかにあるか

時間も

赤羽：資料2-14 御深井丸 地層図

下の青い層 インデックスがない

村木：青く塗っているところ 近世（推測）盛り土

上面が保護の対象の層

赤羽：その上に地層

青い線 水平

御深井丸 造成過程で積まれたものか、名古屋台地の地層か

そこの判断は

村木：遺物が盛り土の中からでてこない

瓦 近世の中でかさ上げしている

赤羽：北 名城公園から橋

車両を導入する

外堀の石垣 今回の調査に含まれていない

文化庁からの注文になかったから

これから必要になるのでは

村木：今年度石垣カルテ作成中

赤羽：苦言を呈したい

内堀 石列をどう評価するか

調査の目的 解体 答える必要はない

わかったこと、わからなかったこと 課題を明示すべき

文化庁 地下遺構 全体状況を把握しろ

わかった範囲 発掘調査は金がかかる

市民の負担で行われた

説明責任が問われる

その点では、はっきり内堀の石列 どういうものか

調査そのもの スローというか遅い

テンポをあげて

石列 下部構造 どういうものか

それを保護するのは条件 中途半端に調査を終えた

下部構造はわからない

調査は不十分

「文化庁の注文にこたえるだけでいい」調査研究センターの意義が問われる

もったいない

痛感した 残念でたまらない

梶原：石列 天守台にすりつく

力学的に独立している

もぐりこんでいないということ

遺構面

千田：赤羽先生指摘を受けて 名古屋市石列

どう考えても創建時 中井家設計図に描かれている幻の小天守の石垣 ほぼ間違いない

本質的な価値に関わる

文化庁と相談 石垣 地下構造を調べる

見つかったものの性質を調べるものではなかった
今後歴史的価値をつかんでいくか検討
とはいえ、西小天守基礎 加藤清正がどう基礎構造を考えていたか
ここでしかわからない
今後 表面展示
この成果を受け、作られなかった石垣を作るわけにはいかない
対応する形 石列が出てきている
将来名古屋城を訪れるお客に見せられたら

西形：2-4 数字が並んでいる
非常に難しい
少し評価するのは難しい
以前、搦手のほうで、斜路 土で埋めた
石垣への影響データ 10数ミリ 石垣が傾いた
埋め戻しは土
今回は発泡スチロール 軽いもの
有効な方法だった
その結果、沈下量が変形 数ミリオーダーで収まる
沈下量 工学的には微小であると評価
変形量が気になる

宮武：座長がトイレ我慢できない
発泡スチロール リバウンドはあるのか
砂よりもよいのんか

西形：最大沈下量数ミリ
とっぴらえばリバウンド
実際にミリオーダーがリバウンドするか？無視できるくらい

11:48
北垣：今日は12時 あと12分
今回の本丸搦手
文化庁 回答しないといけない指摘事項
おおむねしていただけた
ご批判もあるが 相当しっかり頑張っただけ
反映されている
議題3 天守台ボーリング調査、西の丸蔵跡

どうするか トイレ行っていただいて

鈴木：5分間休憩

11:48

11:52

北垣：議題3, 4

報告がある

西の丸追加調査 文化庁がらみ ぜひとも説明を
できるだけ3も4も簡明にして

報告で話が進むよう

20分以内でなんとか

ややこしいことになりそうなら要点を

名古屋城：天守台ボーリング

前回も出した 資料が足りないもうしわけない

千田先生にご指導

資料3-1 保全のため

考古学的、工学的

文化庁からの指摘にしっかり回答 ボーリングが必要

(2) 工学的視点からの検討

北面はらみだし シルト層確認

本丸に降った雨が北側に流れるのでは

右側考え方は説明割愛

騒音と振動 数値で示して

資料3-3 左側左 騒音と振動

宮武：図2番 ブルー 想定支持基盤 大と小が違う

名古屋城：おっしゃる通り

宮武：小天守台になぜボーリングを入れるかが欠落している

説明できますか？

傾斜している可能性

小天守から大天守にシルト層 傾斜の可能性

助け舟ですよ

佐治：理由 書き足して整理したい

北垣：質問があれば

だいたい 大事なところ その点は整理して
西の丸追加調査

12:01

鈴木：資料4-1

前回部会 報告題

あらためて審議題

1ページ目左側追加

背景についてまとめた

整備方針 これまでの経緯 今後手順

まず整備方針 平成24年増補版 平面表示をする

平成26年 整備構想

基本的な整備方針を定めた

調査実施 図情報を

2016、17 文化庁 復元検討委員会 了承を得ている

2019年 現状変更許可を受けた

今後の整備手順 六番御蔵 調査不足が挙げられた

再度の発掘調査を実施したい

あくまで絵図からの推定 蔵跡表示を行う予定

なるべく正しい表示をしたい

来年度前半 調査結果、絵図を勘案して 蔵が変遷した

そのあたりを理解できるような表示内容 設計変更を

名古屋城：先月の部会 報告した

変わらない

資料4-9 全体をまとめた

試掘調査を踏まえて、一番御蔵

1点変更 4-2 調査期間 2期に分けて

前半6月-8月 広範8月-10月

12:07

北垣：文化庁に回答しないといけない

宮武：理解の整理

この整備 盛り土をして、盛り土の上に疑似を再現するのか

鈴木：おおむねその通り

宮武：露出展示

残っているものがどれくらいか検出 明示する
目的としての調査 面的 今回はそれではない
遺構を反映した疑似
ぬけぬけ 本物を表現するのか

鈴木：あくまで絵図上の輪郭を表現する

宮武：ある程度面的なトレンチ 今回はそれではない

絵図
トレンチの目的 下部
工事の際削る、工程上の事故
下の遺構保全のため？

鈴木：主だった調査は安全

疑似の

宮武：特別史跡 開発工事

妥当かどうかは取っ払っている
全体整備検討会議で組みなおすか
調査、集計整備
公園整備を行う 遺構を保全するための調査で開き直すしかない

赤羽：西の丸 幕末、明治 いろんなことに利用された 戦災

遺構が見つけずらい
その後の失敗につながった
かなりあれている
丁寧に調査してほしい
いつも名古屋市の調査を見ていると、少ない面積で大きな効果を上げようとしている
一定の面積を掘らないと
掘ることが破壊とは考えていない
西の丸 入口にあたる
丁寧に調査してほしい

必ずしも平面表示にこだわらない
調査の成果によって、表示の方法
調査があって考えるべき

北垣：ほかには

千田：いってもしょうがないが、何点か釘をさしたい
計画は筋が悪い
資料4-4
現状は絵図と全く異なる
平面表示
本来あった形
ダブルスタンダード 通してしまった
全然史実と異なる形で 脇に表示しておく
基本的な考え方が間違えちゃった 痛みを感じて
図の2と3 蔵の形、配置 あったりなかったり
「これが基準」金城温故録 追い風参考記録
図の2だけを掲げればよい
何がしたいかぶれている
図の2
6番 考古学
5番蔵、6番蔵 同時に存在していなかった可能性
名古屋市
教育委員会
文化庁も許可した
今更しようがない
どういう整備をするか、ゼロベース
事実と違うものを展示スペースとして作っちゃった

宮武：開発行為の疑似といった
それでいくと言っている
もう一度親委員会に諮って、正当に戻すか
それ次第で調査、表示が変わる
開発行為の疑似

北垣：図で千田先生非常に大きいことを言われた
もう一度親委員会に諮って、もう一度考えてもらう

時間はある
まずなされてはどうか
いいとか悪いとかではない
研究史的なもの
他に何か
心配したが、ボーリング、蔵跡調査
回答すべきことだから
進行役の不手際で遅くなった
まとめてなにか

宮武：名古屋市さん、丁寧なので紙で送ってくる
そのあと訂正
出来たら事前はデータで送って それを見る
当日は紙焼きを
人によって違う

北垣：私は紙焼きください
基本的には、現天守解体 指摘事項への対応
親委員会諮っていただく
そこでまた修正がなくて、OK になったら、もう一度こちらに確認する？
決定は親委員会
最終決定 それでよいか
そういうことで

鈴木：4 題目 親にはかってまた戻す
1-3 親に諮る

北垣：大変長時間 はっきり確認しないと 文化庁
十分に検討していただいた

鈴木：ありがとう
最後 佐治よりひとこと

佐治：年度末ご多忙
全員出席 時間延長心より感謝
どの議題 名古屋城整備にとって非常に重要な位置づけ
特に指摘事項の対応 大きく前進

新たなスタート地点に立てる
来年度もよろしく

鈴木：終わる
12:24

部会としては終了
マスコミ関心がある 取材の機会を

北垣：非常に大事 よいと思う